

今後の活動について

シャンティとしては、職員を現地に派遣しての支援活動は2016年6月末で終了しました。同年7月以降は、ARTICが継続的に実施する活動の後方支援として、広域の情報提供・関係者のつなぎ・資金提供・モニタリングなどを行っています。ARTICが実施する主な活動は、熊本市内と益城町・御船町に建設された仮設住宅に入居されている方々を対象に「元気づけイベント・小旅行」「サロン・サークル活動」を通じたコミュニティ支援です。

また、熊本県内で自然学校を行っている一般社団法人アイ・オー・イーとシャンティの東日本支援活動から生まれた気仙沼のNPO法人浜わらすと共同で、交流プログラムを実施します。本プログラムを通し、熊本で被災した子どもたちと東日本大震災で被災した宮城県気仙沼の子どもたちが、災害と私たちの暮らしや緊急時の対応など、お互いに学び合うことを目指しています。

熊本地震決算 期間 2016年4月～2017年4月末

収益	項目	金額(円)
	個人・関係団体・企業等からの支援金	18,865,390

	項目	金額(円)
直接 事業費	①初動調査 人件費・旅費	329,262
	②避難所での炊き出し・配食支援	318,000
	③避難所での入浴送迎・温泉ツアー	2,104,000
	④避難所でのサロン活動	537,293
	⑤熊本への派遣職員 人件費	2,959,210
	⑥東京事務所 緊急救援事業担当 2人	810,000
	直接事業費総計	7,057,765
	管理費(直接事業費×20%)	1,411,553
	費用総額	8,469,318
	収支差額	10,396,072

【備考】

- ・募金の受け付けは、2016年末にて終了しました。
- ・差額の10,396,072円は、2017年・2018年に実施する仮設住宅での活動と交流プログラムに使用します。
- ・活動実施期間は、現地状況に応じて延長の可能性があります。



公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

2016年 熊本地震 被災者支援活動報告

みなさまのあたたかいご支援、ありがとうございました。

「緊急だからこそ、地域の支え合いが心の拠り所に」

熊本地方を震源とする二度にわたる大きな揺れ

2016年4月、熊本地方を震源とする大きな地震が14日と16日の2回立て続けに発生。九州のみならず、海をへだてた四国、中国地方でも大きな揺れが観測されました。熊本・大分地方では近年大きな地震が発生していなかったこともあり、震度7という今まで経験したことのない強く長い揺れと夜間の出来事ということもあいまって、被災地の方々はとても怖い思いをされたことかと察します。



震災で被災した家屋(2016年4月 熊本市内)



震災直後の避難所の様子(2016年4月 熊本市内)

現地NPOと共に、支援活動を開始

シャンティでは、地震発生直後から熊本県内に職員を派遣しました。熊本県玉名市にある「れんげ国際ボランティア会(略称・以下 ARTIC)」と連携し、熊本市および益城町での調査をへて、被災者への支援活動を開始しました。ARTICはシャンティ同様、昭和55年よりアジアでの支援活動を行っているNPO法人で、事務所のある玉名市でも震度6強の揺れがあったにもかかわらず、16日の本震翌日から益城町での炊き出し支援を開始していました。地域のことを熟知しているARTICと国内外での被災支援の経験を有する当会が連携することで、より迅速に支援活動を実施することができました。

◆支援活動1◆ 避難所における食事面のサポート：炊き出し、食事配達

1つ目の支援活動は避難所での食事提供。野菜たっぷりのスープやおにぎりなどの炊き出しを、毎回500食くらいの単位で行っていました。ARTICの事務所がある玉名市・蓮華院誕生寺のご近所の方々やお檀家さん方が中心となり、毎朝早くから準備が行われ、熊本市内の避難所にて炊き出しを行いました。地震直後は、家屋被害が大きくなくても水道やガスが不通となってしまったためご家庭で食事をつくることのできない方々、一人暮らしで余震が怖いため避難されている方々などさまざまな方々から、1杯の温かい野菜たっぷりのスープで「気持ちが落ち着いた」「体だけではなく心もあったまった」という声が聞かれました。

2016年5月中旬以降は、梅雨の時期も近づき、食中毒の発生が懸念されることから、避難所にて調理する炊き出しより、予めARTICで調理した食事の配達へ切り替えていきました。調理時だけではなく、配食時にも、使い捨ての帽子やマスク、手袋などをして衛生面での対応をしました。



炊き出しの準備(2016年5月)



避難所での炊き出し(2016年4月)

【炊き出しおよび食事配達の実績】2016年4～7月
 * 避難所(延べ): 118カ所
 * 数量: 8,779食分



避難所での食事配達(2016年6月)

◆支援活動2◆ 避難所における衛生面のサポート：入浴送迎、温泉小旅行

2つ目の活動は、入浴の送迎や温泉小旅行による衛生面のサポートを行いました。入浴設備のない避難所も多く、拠点避難所(熊本市東区で5カ所)には震災後に熊本市が簡易のシャワーブースを設置しましたが、それ以外の指定避難所ではそのような対応は予定されていませんでした(2016年5月当時)。また、熊本市内のいくつかの銭湯では被災者の銭湯代を無料とするサービス(支援)を行っていましたが、車を持たない避難者は利用することが難しい状況がありました。そこで、避難所にて希



避難所からの入浴送迎(2016年6月)



入浴後、くつろぐ被災者の方々(2016年6月)

望者の方々をマイクロバスで市内の銭湯へ送迎する支援を行いました。入浴送迎は毎回利用される方々も多く、高齢者だけではなく、小学生や大学生などの利用もありました。入浴と休憩あわせてわずか1時間程の時間ですが、身も心もさっぱりできたと評判。「気持ちがよくて3回もサウナに入った」、「今までバケツに水を汲んで外に置いておき、昼間日光で温めた水で身体をぬぐう程度だったけど、やっぱりお風呂に入れるのはありがたい」、「外に出られるだけでも良い気分転換になります」、という声が聞かれました。マイクロバスでの行き帰りには、おしゃべりをしてストレス発散にもなったようです。

また、入浴送迎を実施した各避難所にて月に1回、行先を玉名市の温泉に変え、入浴のほかに旅館での昼食や蓮華院誕生寺での散策を楽しんでいただく、小旅行も企画しました。限られた空間での避難所生活の中で、少しでも羽をのばし

【入浴送迎および温泉小旅行の実績】2016年4～7月

* 入浴送迎: 28回、延べ272名参加、* 温泉小旅行: 5回、延べ97名参加

◆支援活動3◆ 避難所での集いの場づくり

3つ目の活動として「サロン活動」、いわゆるお茶会を避難所で実施。避難所の中の一角にテーブルとイスを用意し、お持ちしたお茶やお菓子を食べながら、避難所ですごされている方々とおしゃべりを楽しむ場づくりを行いました。

お茶やコーヒーのほか、健康や美容に良いと言われているハーブティー、ARTICでつくられている「ご利益茶」(ハト麦や甘草などの薬草がブレンドされた健康茶)などの温かい飲みもの、麦茶・オレンジジュースなどの冷たい飲みものをお持ちしました。地元の名物お菓子なども持参したところ、「なつかしい」と口にする方も多く見受けられました。

また、場づくりのきっかけとして、東日本でも行っている移動図書館活動のように雑誌や書籍を持ち込むこともありました。時には、九州看護福祉大学の学生さんたちが行っている足湯と連携することもありました。

特に体育館のような大きな避難所では、同じ場所で時間を過ごす被災者の方々同士でもなかなか話をするきっかけがないようで、サロン活動を通じてお友達になったりされた方も多くいらっしゃいました。

【集いの場づくりの実績】2016年4～7月

* 避難所(延べ): 20カ所、* 参加者: 341名



避難所でのサロン活動(2016年6月)



サロン活動の飲み物メニュー(2016年6月)